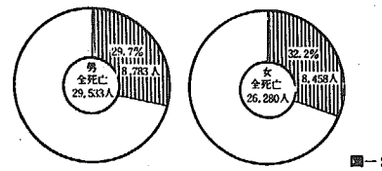
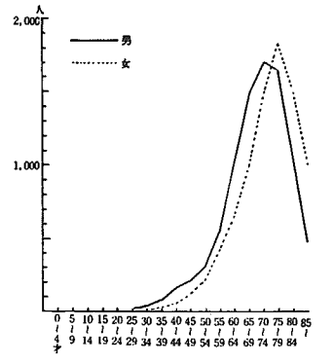
男より女に多い脳卒中
五十代からは要注意

脳卒中は昭和二十六年以来、死因順位のトップを占め続け、本県の死亡率に大きな影響を与えている。昭和二十五年当時は死亡者の一一、九%占めていたが四十年には二一%に達し、以後四六年まで二〇%前後を占め続けるに至っている。そこで今回はこの疾患を特にとりあげ男女別の比較を主に解析してみた。この結果から、男より女のほうが高年令に達してから脳卒中におかされやすい傾向にあることがわかる。

図―1　脳卒中死亡割合（昭和44年～46年平均）



図―2　年令階級別にみた3年間の脳卒中死亡者（昭和44年～46年合計）



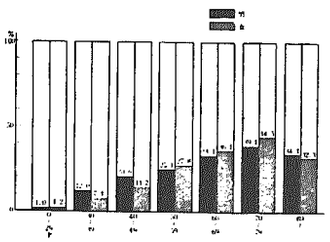
‖男女別の比較‖

死亡者総数に対する割合をみると、四十四年では男二九、六%、女三三、〇%、四十五年では二九、六%、三二、八%、四十六年では三〇、〇%、三二、七%、三年間平均で男二九、七%、女三二、二%と、男より女が脳卒中で死ぬ割合が多い。

‖年令階級別‖

つぎに三年間で脳卒中で死亡した数を年令別にグラフで表すと図1、2のとおり、男は七〇～七四才をピークに五十～八十才以上にかけて鋭い山型をつくっているが、山型も右よりになっている、死亡者総数に対する割合をみると図―3のように男女とも二十九才以下までは、わずか一%程度であるが年令が高くなるにつれ割合が増し、男女とも七十～七十九才で最も多くなっている。また五十～七十九才にかけては男より女が高い割合を示している。

図―3　年令階級別にみた総死亡に対する脳卒中死亡の割合（昭和44年～46年平均）



あとをたたない交通事故

本町における死亡事故は依然としてあとをたちません。この大半は基本的な交通ルールの無視やマナーの欠如に起因するものですがなかでも二輪車事故、これは若者特有のスピードに対する好奇心等からくる高速暴走運転事故が目だち、加えて飲酒運転による事故死です。このまま推移した場合、更に死亡事故の増加が懸念され、誠に憂慮すべき事態であります。とかく事故にあって初めて気ずくことが応々にしてあるものです。これでは遅すぎます。これらの事故を未然に防止するため、町民一人一人が、今日の交通情勢のきびしさを深く認識し、交通安全意識を高め、いたましい死亡事故をなくしましょう。

私も一言

匿名

こゝに尊い老人の人生を紹介いたします。明治、大正、昭和三代の茨の道を呈ましく活きぬいたその人は現在黒鳥に住んでいる八十八才の老人であります。友人はもう皆んな昔に他界し、妻も逝って三十余年、耳が遠いので世間や若者から断絶されておりますが日々笑顔を忘れず、余生をかけて歌ともなく詩ともなく自作の思い出を綴りながら、何時おとずれる人生の行き止まりにも目をくれず、がんばっております。

私はこの尊い一人の人間の生き方に限りない讃美を捧げております。

激動の中の日々の生活に多忙な町民の皆さんの心のやすらぎのために次の歌を広報を通じて紹介いたします。

原文のまゝ

古今の変化天地の如し

一、昔思えばいもからぞうせ中にきびもちごちゃごちゃと大根菜葉が取組んでまばらに御飯が行司する

二、米の飯ならおかずもいらぬどんな仕事もなんのそのカテ飯忘れた銀の飯、今は米の飯でもおかずのせんさく、なんのかんのが口ぐせだ是れも皆んな世のならい。

三、昔はわらのすがむしろ今は畳にふとんじき外に出るにはつぶわらじ今は皮靴四ツ車

四、田圃出るにはつぶ足にしがの立つ中ふみわけて入る田圃は水の中

五、田の草とるには首水ひたし耳にヘリコがなりさがる、今はがんぎでころ／／とおくすりまいてご免なさい

六、稲刈りするには箱かんじきに今はコンバインでもみ袋、家に帰ればかんそうき、明日にもお米が倉庫入り

鶴立鷺句かえ歌

一、緒立／／は下駄屋の大店遠い昔は谷地の中

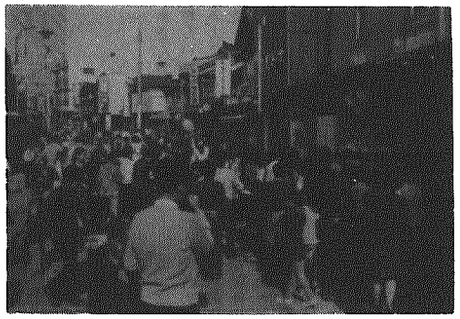
二、柿をみそめし若葉のおとめ、これも恵みの神の告げ

三、鳥の中でも真あるとりは是処が安地と腰おろす

四、お湯に入ればよい／／気持あがりてよいよいひざまくら

五、京も都もから天じくもいの字とほの字はかわりやせぬ

好評だった歩行者天国
子どもは大喜び

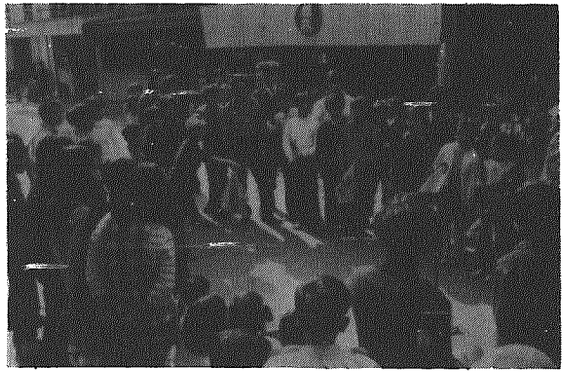


十一月四日、町では初の試みである「歩行者天国」が一日実現した。この発想は毎日、児童、生徒の登下校、また家へ帰ってからも常に車の恐怖にさらされている為せめて一日だけでも道路で自由に走り回り遊び場として確保したらという歩行者天国実行委員会（委員長、佐藤平作氏）が結成され、黒埼幹部派出所、交通指導隊、商工会、商店街、町当局などが協力して、大野商店街の八区、七区、仲町、二ノ町の四町内の町道を午前十時から午後四時まで、一切の車をシャットアウトして実施された。

当日はちようど公民館祭（文化祭）でもあり、子ども連れで学校へ作品の観覧に行く人もいつもは歩道や道路の右はしをこわごわ通っていたが今日は車が通らないということで道路の中央をなごやかに歩く姿が目をひいた。また実行委員会では、子ども達から楽しんでもらおうと、ゲームコーナーを設けたり、ベニヤ板に太洋紙を張り、これを数十ケ所に置き、自由に落書きをさせたり、宝さがしゲームや輪投げ大会、マラソン大会なども行われ常に遊べない道路上で延千人もの子ども達が秋空の下で大いに楽しんだ。

驚いたことに終了時前数回となく広報車で危険のないよう周知しているにもかかわらず、熱心に遊んでいる小さな子どもは、まだ続いているものと感違いして急に道路を横断したりかけまわったりして関係者を大いにあわてさせる場面もみられた。

しかし、一件の事故もなく皆さんから喜んで頂いた事について実行委員会も大変喜んでいた様子。



写真上　宝さがしゲームの表彰式に集った人達

写真右　道路の中央で輪投げ大会

全国農業新聞購読のおすすめ

全国農業新聞は、農業者の利益代表機関である農業委員会系統組織が農業者の立場に立って、編集発行している農家のための新聞です。文字通り農業専門紙の中核紙としてこれこそ農業者必読の新聞として大変読みやすく、内容が充実しており好評いただいております。農業を積極的に進めようとしている皆様の農政、農業経営の道しるべとして常に紙面の刷新強化を図っています。どの面を取り上げても読者の要求と感覚にピッタリ。農業近代化のための座右紙として皆様のご期待に必ず応え得るものと確信いたしております。

ご希望の方は農業委員会まで申込んで下さい。電話連絡でもよろしいです。

図書寄贈

焼鮒団地　畑山佐太郎さん

歓迎とその弟子（五井昌久）
愛すること（五井昌久）
日本の心（五井昌久）
ありがとうございました。

文芸壇　文化財めぐり（民具同好会）

木場　柏　直樹地　詠

○米山・大清水道辺にて
佐渡見えず紺碧の海さわぐ岸鴎むれとびりんどう咲けり
○五智国分寺にて
五智如来おがみつ、聞く御縁起のテープレコーダーも尊とかりけり
○能生・白山神社にて
神さびし社殿の裏にしげり立つ白山社叢はいみじかりけり
○糸魚川の奴奈川姫の銅像
大国主奴奈川姫のロマンの地尋ね巡りていにしへ偲ぶ
○相馬御風邸にて（二首）
大空文誉静心居士の御位碑に額づき大人の厚情に礼す
現身（うつしみ）は死せしと言へど無量寿の書幅の如く文は滅びず
宇奈月にて
夕には美術館をば鑑賞し今朝は黒部の紅黄葉見る幸（さち）
○黒部峡谷
碧流の上の山みな紅黄葉して彼方の空に雪の峰見ゆ